

## 日韓交流を深めるきっかけ ～第 8 回日韓交流スピーチ大会の開催報告～

ソウル事務所

### 1 日韓交流スピーチ大会とは

日韓交流スピーチ大会は、JETAA 大韓民国支部、在大韓民国日本国大使館、クリアソウル事務所の共催で実施しており、日本語ネイティブの方は韓国語で、韓国語ネイティブの方は日本語で、お互いの国で感じたことやお互いの国と関係のあるエピソードなどを発表する場です。

2006 年（平成 18 年）から始まり、今年で 8 回目になりました（昨年度の報告は[こちら](#)）。今年は日韓両国の関係がいろいろ取りざたされる時でもありましたが、昨年度よりも多い 148 名からの応募がありました。その中でも日本人の応募者が増えたことが特徴の 1 つです。

また、マスコミの注目度も例年以上であり、日韓のテレビ局や新聞社が多く取材に訪れました。特に、NHK の取材結果は、早速当日 19 時の全国ニュースで紹介され、政治的な波風に負けない日韓交流の象徴として、日本でも大きな注目を集めたところでした。

### 2 運営の工夫

今年は、会場に来ていただいた方々に一体となって楽しみ、興味を持っていただくため、今まで審査員のみで審査をしていたところを、一部の賞に「観客票」を取り入れました。また、スピーチ発表後から審査結果が出るまでの待ち時間に、ジャンケン大会、日韓のなぞなぞやクイズ、早口言葉などを出題し、優勝者や正解者には日韓にゆかりのあるグッズをプレゼントしました。スピーチ大会参加者や観客の皆様に積極的に参加していただき、会場は大いに盛り上がりました。この時間を通して、スピーチとは違った形で観客のみなさんがお互いの国のことを楽しみながら理解するよい場となりました。



ジャンケン大会の様子

### 3 伝えることによって相互理解が深まる・交流が生まれる

今年の応募者のスピーチの内容は、語学の勉強を始めたきっかけや、それぞれの国に留学・旅行・ホームスティ等に行った時のエピソード、お世話になった人への感謝、日韓の文化・風習の違いを通して感じたことなど、多岐に渡っていました。また、東日本大震災

や現在の日韓関係について触れた内容もいくつかありました。

スピーチ大会当日は、ジェスチャーや小道具を使って、スピーチされる方も多く、会場を盛り上げました。

今年之最優秀賞受賞者は「花火」を通して学んだ日本文化と新しく知った日本人の一面について語ってくださった大学生の女性でした。「花火」に込められた日本人の心を、繊細かつ美しい日本語を使って語ってくださったその表現がとても素晴らしく、多くの観客の心を捉えました。



出場者のみなさん

スピーチ大会で伝える内容は、それぞれが日本・韓国に対して感じたことなので、伝える側はもちろんのこと、聞く側としても、知らず知らずのうちに、お互いの国の文化や価値観等を知るようになり、楽しみながらお互いを理解するきっかけとなっています。

スピーチを通して伝える側も聞く側も学ぶことはとても多いと感じました。また、スピーチ大会終了後に開催された交流会を通して、さらに交流が深まりました。

今回のスピーチ大会のように、日韓の老若男女がお互いの国に関心を持ち、理解し、草の根レベルでの交流を図ることが、日韓交流を推進するうえで必要ではないかと感じました。

(長谷所長補佐 富山県派遣)

CLAIR